



第35号

2025年(令和7年)1月

発行所

社会福祉法人 聖家族会
発行責任者 西村和子

編集 広報委員会

☎859-0167長崎県諫早市
小長井町遠竹2727番地3

☎ 0957 - 34 - 4520

FAX 0957 - 34 - 4521

蛇のように賢く、鳩のように素直に

社会福祉法人 聖家族会 理事長 西村 和子

明けましておめでとございます。沢山の方々に支えられみさかえの園が開園して64年目に入ります。すべてのことに感謝しています。

今年、旧約聖書の初めから蛇は出てきます。あの有名な失楽園の話です。まず蛇はエバに語り掛けます。蛇は神様が人間に何を語っていたか全部知っていて、巧みな言葉で人間を惑わし、神様との約束を破らせてしまいます。

新約聖書の中では、イエスは弟子たちを宣教に出す時に「私はあなた達を遣わす。それは狼の群れの中に羊を送り込むようなものだ。だから蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。人々を警戒しなさい。」(マタイ10:16)

蛇(悪魔)は人間をだますことができます。だまされないように賢く考え、生きていくために知恵を持ちなさい。そして鳩のように平和であ

るようにと書かれています。この世を生きるには平和であると共に賢さを持つていなければならぬということ。

最近「ホワイト案件」と言う「合法で簡単で高収入が得られる仕事」という宣伝語で実際は詐欺や強盗と言った犯罪に巻き込まれ、人生がすべてブラックに変わることがあります。エバが蛇との短い対話で、大きな悪と見せずに原罪という子孫全体に及ぶほどの結果を招きました。今それが繰り返されているようです。蛇の悪に騙されないために蛇のように賢くこの一年間を過ごしましょう。少子高齢化の日本にとって若者一人一人は、日本の大切な未来です。すべての人が世の光となつて、輝く命を持った一人ひとりで、輝くに気づかせてくださるよう祈っています。

事務局長就任と新年のご挨拶

社会福祉法人聖家族会 みさかえの園 法人事務局 局長 前田 孝章

令和6年4月から、法人事務局に入職させていただきました。早いもので約9か月が過ぎました。これまで雲仙市内で勤務していたため、この季節になると、多良岳の冬景色を眺めながらの通勤でしたが、現在は逆に、対岸から雲仙岳に積もる雪景色を眺めながらの通勤となり、これまでと違う四季折々の移ろいを感じながら毎日車を通っています。

法人事務局では、直接医療・福祉業務をしている訳ではないため、はじめは聞き慣れないことばなども多く、しばらくは「これは何?これはどういうこと?」とお尋ねする毎日でしたが、法人内職員や役員の方々からご支援ご指導いただきながら業務に励む中、法人運営を担う職務の重大さと、その責任の重さを痛感しているところ です。

みさかえの園については、入職前の仕事の関連もあって、施設入所支援や障害福祉サービスを提供する施設であることは知っていましたが、実際に入職して、仕事に携わってみると、60余年にわたる法人の歴史の重み、あらゆる場面でひしひしと感じるとともに、引き続き、これまでの取り組みを持続させていくためには、安定した経営基盤の確立と携わ



る人材の確保・育成が何より大切であると思っています。

また、少子・高齢化など、社会福祉法人を取り巻く環境が大きく変化中、施設等に求められるニーズは、これまで以上に複雑・多様化することが想定されることから、法人の10年先20年先を見据えたとき、より一層の経営改善や働きやすい環境整備に努めるとともに、職員が誇りとやりがいをもって仕事に従事できるように、ともに取り組むことが必要になると感じています。

最後になりますが、新年が平和に明るく過す年になりますよう、心からお祈りするとともに、新しい環境で少しでも皆さまのお力になれるよう、精一杯頑張つてまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

「多肉植物寄せ植え会」

みさかえの園児童発達支援センター

中村 朝美

センターでは、園芸活動の一つとして、4月から多肉植物を育て始めました。利用者と職員一人一人のポットに「葉挿し」から始めました。初めての取り組みに、職員も半信半疑で、多肉植物って何なのか、どこからどうやって芽がでるのか、そんな疑問だらけのスタートでした。育てる環境や水やりのタイミングなど工夫しながら、小さな芽がはじめる。「芽が出てくる！」と利用者と一緒にワイワイ喜び合いました。外に出て花や野菜のお世話と一緒に「大きくなってね」と自分の苗を観察して変化を感じてもらいました。「○○さんの可愛い♡」「○○さんはまだ芽が出ない」と日々様子を眺めながら色や形、大きさなどを比べて何かと話題になりました。

多肉植物が苦手とする梅雨を超え、猛暑を超えて、利用者の苗は、ポットからはみ出る程成長する物が多く、中には紅葉を見ることができました。残念ながら一つも育たない職員のポットがあり、最後まで話題の種になり、笑いを提供してくれました。

11月下旬に育った様子を保護者へお知らせし、「寄せ植え会」へお誘いしていました。多肉植物に興味を持たれている方や、初めての試みに関心

を持たれる方がおられ、8名の参加希望がありました。

寄せ植えは、コツがあり色々な方法があるようですが、難しく考えず、思いのままに寄せ植えしてもらいました。黙々と作業され「集中して無言になるね」と笑い合ったり、おしゃべりに花が咲いたり、利用者が育てた多肉を丁寧に配置したりと、素敵な時間が流れました。家族と一緒に癒され、笑顔になる時間を提供できたのではないかと思います。

育て方のコツをまとめた物と一緒にそれぞれの家庭に届けることができました。これから、多肉植物のその後が話題になっていけば、楽しみが続いて嬉しいなと思います。



4月 葉を一枚ずつ取って葉挿しに



11月
一枚の葉から出た小さな芽がこんなに大きく成長しました



寄せ植え会の様子



完成した寄せ植えはそれぞれに良い表情にできました！



緊張の防災訓練

グループホームりん 鶴田 睦恵

グループホームりんでは、にじハウス（A棟／B棟／C棟18名）、ゆめハウス（5名）それぞれで年に2回の防災訓練を行っています。火災を発見したり火災報知器が鳴ると、職員はまず初期消火にあたり、他の職員は利用者の避難誘導にまわります。利用者の方は慣れたもので、報知器が鳴ると直ぐに外に出る事はだいたい出来ています。それは年2回の訓練の賜物だと思います。どちらかと言うと通報や初期消火の役が回ってくる職員の方が緊張度は高いかもしれません。利用者の皆さんは訓練となるといつもと違って真剣な表情になり、職員の指示に従い動かれます。中にはお友達の手を取って動いてくださる方もいます。

火災は起きてほしくはないですが絶対には限りはないので、火災につながるような箇所が無いか定期的に点検する事が大事です。利用者、職員共に今後も防災訓練に励んでいきます。

にじハウス

利用者はベルが鳴ったらすぐに外へ出る

ゆめハウス



A棟洗濯干し場からB棟前を避難中



サテライトセンター玄関前 第一時避難場所



消火器訓練



B棟リビング前 避難中

「諫早市の相談支援事業所の現状について」

皆さまこんにちは。久々の登場となります相談支援事業所の「スマイルサポート」です。現在スマイルサポートは専任スタッフ5名兼務スタッフ2名の体制で在宅、施設入所合わせて600件を超えるサービス等利用計画（ケアプラン）を担当しています。今回は諫早市における相談支援の現状をお伝えしたいと思います。市内では現在、当事業所を含め12か所の相談支援事業所があり、約30名の相談支援専門員が活躍しています。諫早市は障害福祉サービス事業所が多いだけではなく県の機関等あることから資源豊富な市町のひとつだと言えます。そういった背景もあり年々、障害福祉サービスの希望が増加傾向にあります。しかし、それに合わせてケアプランを作成する相談支援専門員はあまり増えていないのが現状です。特にサービス希望が増加傾向にあるのが「児童」の福祉サービスです。よって、お子さんが利用する「児童発達支援」や「放課後等デイサービス」（どちらもこどものデイ

サービス）のプランを作成してくれる事業所がなかなか見つかりません。背景としては2歳〜3歳の早期療育の必要性があるお子さんや、保育園や学校に適応が難しいお子さんが軒並み増加していることが考えられます。またスマイルサポートは諫早市からの事業を委託しているため、決まらない相談支援事業所の調整の役割も担っています。しかしなかなか大変な状況でスタッフがよく電話口で悪戦苦闘していました。

サービスの希望者は増えるがケアプランを作る相談支援事業所が増えていないという現状を早急に変えることは困難ですが、諫早市の委託事業所としてこれからも行政含め市内相談支援事業所や関係機関と連携、情報共有しながら利用者様の意思決定支援を念頭に希望する地域生活を支えていけたらと思います。（スマイルサポート）



重症児者の文化を発信する

あゆみの家施設長 平松公三郎

重症心身障害の方々は、画用紙に向かうと点と線での表現に終始することが多いですが、自ら生み出す点と線の作品にはパワーがみなぎっています。自ら選んだ色で、制限のない白い画用紙に、おもいきりの点をそして線をぶつけるのです。その点と線を生かして額を添えると、どこにもない作者の思いのこもった立派な作品となります。あゆみの家の中にあるギャラリーや廊下には、彼らの作品が展示されています。施設見学者から感動の声が上がることもしばしばです。彼らの点と線から生まれるパワーを感じられるからだと思います。

今年、「ながさきピース文化祭2025」と銘打って国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭が長崎で開催されます。「芸術は爆発だ！」の岡本太郎よろしく、重症児者の命の光の爆発を、この機会にあゆみの家からも発信したいと思います。そしてこの爆発からすべてのひとが命の大切さを想う年になることを願います。



ながさきピース文化祭2025

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭
令和7年9月14日(日)→11月30日(日)

アートがもたらすもの

※HAPPチームアートディレクター

平松 綾子

日頃の創作クラブの活動では、仕上げまでを数回に分けたり、言葉では伝え合えない二人の利用者さんが対面に座り共同制作をしたり、画用紙以外

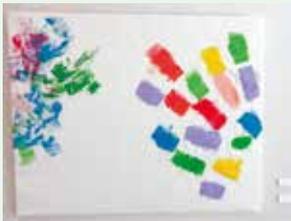
の布や米袋などの厚紙、木切れを使って表現することなどを行っています。創作活動を通じて言葉は交わさなくてもお互いを認め合ったり、色使いや筆運びなどが影響し合っていることがうかがえます。回を重ねるにつれ笑顔が増えうまうまといつたときは喜びの声を発されるので、思わず目を見張ることがたびたびです。アートがコミュニケーションの道具になっており、また支援しているスタッフが豊かなひとときを利用者さんと共に過ごす創作時間にもなっています。

手助けをして誰にでも分かるような作品に仕上げ飾ってあげるといふ支援の姿勢は無用であると思うようになってきました。適切な道具と集中できる場と時を確保できれば、利用者さんの心の内に眠る表現の道は開かれるものと確信しています。

今年九月から始まる全国障害者芸術・文化祭に向けて創作クラブの利用者の皆さんには、これまでよりも少し大きな絵画作品に取り組んでもらうカリキュラムを立てています。どのような作品が生まれるか楽しみです。

創作クラブのアート活動支援に関わることができて学びの機会をたくさんいただいていることに感謝です

※H A P...Health & Art Project



共同制作 (女性2名)
105×85cm



円形キャンパスに
弟さんを描く



共同制作 (男性2名)
80×110cm



ギャラリー
にじみ絵作品展
(利用者、職員)



紙皿に絵付け中

ワークスペースあん

新年にあたり今年もよろしくお願い致します。

昨年「いま改めて『働く意味』を問う」をテーマとした基調講演を拝聴し、ワークスペースあんの就労支援の理念「仕事（働く・働きたい）を通じて「働く喜び」「生きがい」「達成感」を味わい豊かな生活を送れる様に支援する」を振り返る機会となりました。開所時は働くことの意義（生活の糧・生きがい・社会とのつながり）の理解から始まりました。障害特性や個性に応じた作業提供で経験や体験を蓄積し、新たな挑戦で更に自信をつけ現在は作業内容や態度、技術に応じた工賃アップを求め日々作業に取り組んでおられます。又、作業の質が評価され外部作業依頼の増加をもたらしました。更に職員手作りの治具も成果を上げています。今回、主力作業である玉葱苗について紹介させていただきます。
※ 治具とは… 作業が円滑に行えるように利用者さんに応じて作られた備品です。

(サービス管理責任者：門脇直子)

<玉葱苗について>

種の種類



- ・超極早生・極早生・早生・中生・中晩生・晩生と収穫時期に合わせて9種類の種を蒔いて行きます
- ・種の大きさは、ゴマ粒より小さく扱いが難しいです
- ・種によっては、色付けされています

覆土作業



種蒔き作業



- ・指定された畑（畝）の枠内に定量の種を均等に蒔いて行きます
- ・根気と正確さが求められる作業です
- ・雑に蒔いてしまうと発芽に影響します

休憩中

- ・ホット一息、休憩中
- ・熱中症対策（こまめに水分補給と塩飴）に努めながら乗り切りました



- ・ふんわりと適量を蒔いた種の上にかぶせて行きます
- ・手先の器用さが求められる作業です
- ・現在3名の方が張り切って担当しています



収穫用治具

- ・1束50本を作るために1本ずつ並べて10本束を作り仕上げていきます
- ・自分専用の治具に作業意欲も向上します



「夜間時の火災訓練を体験して」

みさかえの園めぐみの家

生活支援員 森口 智子

施設における夜間想定避難訓練は、利用者様と職員が非常時に迅速かつ安全に避難できるようにすることを目的としています。その為には、限られた職員で役割を決めて行動することが求められます。私は暗闇や視界不良も想定し、職員同士が大きな声をかけあいながら行動することを心がけました。実際の避難時に起こり得る困難にも備えなければなりませんし、集合場所への誘導がいちばん重点になります。訓練後の反省では、消防署の方より非常時には歩行可能な方も車椅子を使用することで、迅速に安全に誘導できると助言を頂きました。避難後の集合場所に利用者様の名前を点呼し全員避難完了した時は訓練とはいえ、ほっとしました。日頃から訓練を積み重ねて

問題点や改善点を共有し、次回の訓練に生かしながら職員の対応能力を高めていくことは、利用者様の安全確保を徹底することにつながると実感しました。

「今日も笑顔で…」

みさかえの園めぐみの家

調理員 佐藤めぐみ

昨年4月より「めぐみの家」で働かせていただいております。利用者様の食事作りは十数年ぶり、私自身も年齢を重ね、新しい事を習得するのも若い頃のようにはいかないかと痛感する毎日でした。それでも頼りがいのある先輩方に支えられ助けてもらいながら、日々、仕事をさせてもらっています。そして、利用者様の笑顔や「おいしかったよ」という言葉かけが私の励みになり、やりがいを感じています。

これからも感謝の気持ちを忘れず、人と人との「和」を大切にして、毎日笑顔で食事を提供していきたいと思えます。



「老朽化による設備等の更新完了」

みさかえの園のぞみの家

施設長 田中 伸一

本年も余日少なくなりましたが、寒さも日ごとに増してきて、一気に冬模様となりました。

さて、のぞみの家では前回のみさかえの園だより三四号でお知らせしていたとおり、今年度に入り付属設備（電気・配管）の老朽化（二十九年経過）による単独エアコンの更新工事や高圧受電設備と非常用発電機の更新を同時に行いました。二度に渡って停電作業を行うなど利用者の皆様にもご迷惑をおかけしましたが、無事に七月末には竣工することができました。

近年は地球温暖化の影響もあり、夏場が非常に暑くなってきました。今年度の夏も暑い日が長く続き心配していましたが、何とか工事が間に合い、予定通りエアコンを使用することができましたので安堵しています。今回の単独エアコンの更新工事では、今までエアコンが設置されていなかった場所にもエアコンの取り付けを行い、各端末で温度調整も可能となったことから、以前と比べ快適

な環境で支援を提供することができています。現在は、本格的な寒さ到来により空調を暖房運転へ切り替え、暖かい中で利用者の皆様は過ごされています。

また、みさかえの園のぞみの家育友会互助会様からの多額の御寄付（お志）をこの工事に使用させていただきました。改めてご報告申し上げますとともに、温かいご支援に心より厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスやインフルエンザの流行など感染症に関して心配事が尽きない日々ではありますが、施設内への持ち込みがないように今後も感染症対策を徹底して行い対応していきたいと思えます。のぞみの家では、利用者様の平均年齢も六十九歳を超え高齢化が進む中、重症化を防ぐために新型コロナウイルスとインフルエンザのワクチン接種を既に受けてもらっています。今の時期は、マイコプラズマ肺炎など他の感染症も流行しており健康管理がたいへん難しいですが、利用者様の体が体調を崩すことなく、穏やかに園での生活を過ごしていただけるよう職員一同これからも努めて参る所存です。

「利用者様と向き合いながら」

みさかえの園のぞみの家

生活支援員 山田かおり

今年度の六月に入社し、早いもので半年が過ぎようとしています。

のぞみの家で勤務させていただくにあたり、前職で同じ業種に従事していたので、今まで培ってきた経験を活かせればと思っていました。しかし、前職とは業務内容も異なる部分が多く、戸惑うことの連続でした。特に、入社してからの二ヶ月間は、業務内容の流れを覚えることに必死で、周りを見る余裕が全くありませんでした。そのような時に、新たな環境で周りに打ち解けられずにいた私を利用者様はじめ職員の方々が温かく迎い入れて下さったことに感謝の気持ちでいっぱいです。また、自ら進んでコミュニケーションを取ることの大変さを改めて思い知ることができ、まだまだ勉強することが沢山あるのだと痛感しました。

今後、経験を積み重ねていく中で、利用者様一人ひとりと向き合い、個々の性格や障がいの特性など自分から学び、理解しようとする気持ちを一番に考えていきたいです。

そして、自分の仕事に対するモチーでもある「気配り・目配り・心配り」を誰に対してもできるようにこれからは頑張っていこうと思います。



法人事務局からのお知らせ

全職員の集いを開催しました

11月27日 むつみの家ホールにおいて全職員の集いを開催しました。コロナ禍のため令和元年以来5年ぶりの開催となりました。

前半は福岡教区の宮原良治名誉司教を講師に招き、「みさかえの園の理念について」をテーマに講演いただきました。なぜ社会福祉にカトリックの精神やマリアの心が必要なのか？社会福祉法人で働く者として、考えさせられるお話でした。

後半では永年勤続表彰式を開催しました。当法人勤続10年・20年・30年・40年・50年の節目を迎えられた職員41名の表彰で、ここ数年は事業所内だけで表彰していましたが、今回は理事長より各周年の代表者に表彰状を授与しました。表彰者のみなさま、おめでとうございます。



防犯訓練を実施しました

12月19日 むつみの家なごみ会館において防犯訓練を実施しました。

諫早警察署小長井駐在所の中村巡查長を講師に招き、前半は福祉施設での不審者（侵入者）対応のDVDを視聴。後半はめぐみの家職員による模擬訓練を実施しました。長里駐在所の下釜巡查部長による不審者役が迫力満点で、職員も緊張感を持って訓練に臨みました。職員の連携プレーにより無事に不審者を確保することができて、警察からお褒めの言葉をいただきました。模擬訓練終了後は他の参加者も実際にさすまたを手にとって取扱の仕方について確認を行いました。

こういった緊急事態にならないのが一番ですが、万一に備えて今後防犯訓練を継続的に計画・実施していく予定です。



社会福祉法人聖家族会のホームページはこちらのQRコードからご覧いただけます。

<https://misakae.or.jp/>